

13. 主要開発品

<自社開発品一覧>

品目／開発コード	効能追加**	開発ステージ***	領域
承認取得品			
◎ レンビマ（肝細胞がん）	効能	（米欧中ア）承認	がん
◎ フィコンパ（てんかん小児適応）	効能	（米）承認	神経
◎ モビコール（慢性便秘症）*		（日）承認	消化器
申請中・申請準備中開発品			
ハラヴェン（乳がん）		（中）申請	がん
◎ フィコンパ（部分てんかん併用療法）		（中）申請	神経
◎ ME2125（パーキンソン病）		（日）申請	神経
臨床試験中開発品			
E2006（不眠障害）		（日米欧）PⅢ	神経
E2609（早期アルツハイマー病）		（日米欧中）PⅢ	神経
BIB037（早期アルツハイマー病）		（日米欧）PⅢ	神経
○ レンビマ（子宮内膜がん・セカンドライン・抗PD-1抗体ベムプロリスマブとの併用療法）		（日米欧）PⅢ	がん
AJM300（潰瘍性大腸炎）*		（日）PⅢ	消化器
リーバクト（低アルブミン血症）		（中）PⅢ	消化器
フィコンパ（レノックス・ガストー症候群）	効能	（日米欧）PⅢ	神経
フィコンパ（てんかん小児適応）	効能	（日欧）PⅢ	神経
フィコンパ（部分てんかん単剤療法）	効能	（日）PⅢ	神経
レンビマ（甲状腺がん）	効能	（中）PⅢ	がん
レンビマ（腎細胞がん・ファーストライン・エベロリムスまたは抗PD-1抗体ベムプロリスマブとの併用療法）	効能	（日米欧）PⅢ	がん
BAN2401（早期アルツハイマー病）		（日米欧）PⅡ	神経
E2006（アルツハイマー病／認知症に伴う不規則睡眠覚醒リズム障害）		（日米）PⅡ	神経
E2027（レビー小体型認知症）		（日米欧）PⅡ/Ⅲ	神経
◎ E2730（てんかん）		（米）PⅡ	神経
◎ E2082（てんかん）		（米）PⅡ / （日）PⅠ	神経
MORAb-003（プラチナ感受性卵巣がん）		（日米欧）PⅡ	がん
MORAb-004（メラノーマ）		（米欧）PⅡ	がん
MORAb-009（中皮腫）		（米欧）PⅡ	がん
E7777（末梢性T細胞リンパ腫、皮膚T細胞性リンパ腫）		（日）PⅡ	がん
E7438（B細胞性非ホジキンリンパ腫）		（日）PⅡ	がん
ハラヴェン（乳がん・抗PD-1抗体ベムプロリスマブとの併用療法）		（米）PⅠ/Ⅱ	がん
レンビマ（固形がん・抗PD-1抗体ベムプロリスマブとの併用療法）		（米）PⅠ/Ⅱ（日）PⅠ	がん
E6007（潰瘍性大腸炎）*		（日）PⅡ	消化器
E6011（関節リウマチ）		（日）PⅡ	その他
E6011（原発性胆汁性胆管炎）*		（日）PⅡ	その他
◎ E6011（クローン病）*		（日欧）PⅡ	その他
ハラヴェン（膀胱がん）	効能	（米欧）PⅠ/Ⅱ	がん
レンビマ（非小細胞肺癌 RET 転座）	効能	（日米欧ア）PⅡ	がん
レンビマ（胆道がん）	効能	（日）PⅡ	がん
ハラヴェン（乳がん・PEGPH20との併用療法）		（米）PⅠ/Ⅱ	がん
H3B-6545（乳がん）		（米）PⅠ/Ⅱ	がん
Belvia（肥満症）		（日）PⅠ	神経
E7090（固形がん）		（日）PⅠ	がん
H3B-6527（肝細胞がん）		（米欧）PⅠ	がん
H3B-8800（血液がん）		（米欧）PⅠ	がん
レンビマ（肝細胞がん・抗PD-1抗体ベムプロリスマブとの併用療法）		（日米）PⅠ	がん
E7386（固形がん）		（欧）PⅠ	がん
MORAb-202（固形がん）		（日）PⅠ	がん
レンビマ（肝細胞がん・抗PD-1抗体ニボルマブとの併用療法）		（日）PⅠ	がん
E7130（固形がん）		（日）PⅠ	がん
MORAb-022（関節リウマチ）		（米）PⅠ	その他
E6742（自己免疫疾患）		（米）PⅠ	その他
ハラヴェン（リボソーム製剤）	剤形	（日欧）PⅠ	がん

* EA ファーマ開発品、** 効能：効能効果追加、剤形：剤形追加

*** 日：日本、米：米国、欧：欧州、中：中国、ア：日本・中国を除くアジア P = Phase：臨床試験段階

OE6130について、日本でフェーズⅠ段階にありました炎症性腸疾患を対象とした開発を中止したため、本表から削除しました。
OMORAb-066について、米国でフェーズⅠ段階にありました固形がんを対象とした開発を中止したため、本表から削除しました。

○：2018年4月以降の進捗、◎：2018年7月以降の進捗

(1) 神経

開発品コード：E2007 一般名：ペランパネル 製品名：フィコンパ/Fycompa

薬効/作用機序：抗てんかん剤/AMPA受容体拮抗剤			自社品		
[概要] グルタミン酸受容体のサブタイプであるAMPA受容体へのグルタミン酸の結合を選択的に阻害します。部分てんかんの併用療法に対して日本、米国、欧州、アジアなど、55カ国以上で承認を取得しています。また、米国では、4歳以上のてんかん患者様の部分発作（二次性全般化発作を含む）に対する単剤療法での承認を取得しています。全般てんかんの強直間代発作の併用療法の適応についても、日本、米国、欧州、アジアなど50カ国以上で承認を取得しています。米国では、経口懸濁液の承認を取得し、販売しています。					
部分てんかん単剤療法（効能追加）	342試験	日本 PⅢ	2018年度申請予定	経口剤	
レノックス・ガストー症候群（効能追加）	338試験	日米欧 PⅢ	経口剤		
てんかん小児適応（効能追加）	311試験	◎ 米国 承認（2018年9月） 日欧 PⅢ	2018年度申請予定	経口剤	
◎ 部分てんかん併用療法	335試験	中国 申請（2018年10月受理）	経口剤		

開発品コード：E2006 一般名：レンボレキサント

薬効/作用機序：オレキシン受容体拮抗剤			自社品		
[概要] 睡眠と覚醒の調整に関与するオレキシンの受容体に拮抗することで、覚醒状態を鎮め、自然な睡眠の誘発・維持を期待しています。					
不眠障害	303/304試験	日米欧 PⅢ	2018年度申請予定 Purdue Pharmaと共同開発	経口剤	
アルツハイマー病/認知症に伴う 不規則睡眠覚醒リズム障害	202試験	日米 PⅡ	Purdue Pharmaと共同開発	経口剤	

開発品コード：E2609 一般名：elenbecestat

薬効/作用機序：アルツハイマー病治療剤/ β サイト切断酵素（BACE）阻害剤			自社品		
[概要] アミロイド前駆体タンパク質の β サイト切断酵素であるBACEを阻害することで、ベータアミロイドの総量を低下させ、アルツハイマー病の進行を抑制することを期待しています。					
早期アルツハイマー病	301/302試験 (MISSION AD1/2)	日米欧中 PⅢ	Biogen Inc.と共同開発	経口剤	

開発品コード：BIIB037 一般名：aducanumab

薬効/作用機序：アルツハイマー病治療剤/抗A β 抗体			導入品（Biogen Inc.）		
[概要] Aducanumabは、リバース・トランスレーショナル・メディシン（RTM）と呼ばれるNeurimmune社のテクノロジー・プラットフォームを用いて作成されたヒト遺伝子組換えモノクローナル抗体（mAb）であり、認知障害の兆候のない健康な高齢者、または進行が異常に遅い認知機能障害のある高齢者から採取した、非特定化B細胞ライブラリーに由来します。Biogen Inc.は、Neurimmune社よりaducanumabを導入しました。Aducanumabは、可溶性オリゴマーと不溶性線維などが凝集してアミロイドプラークを形成しうる形態のベータアミロイド（A β ）を標的とすると考えられています。					
早期アルツハイマー病	ENGAGE/EMERGE 試験	日米欧 PⅢ	Biogen Inc.と共同開発	注射剤	

開発品コード：BAN2401

薬効/作用機序：アルツハイマー病治療剤/抗A β プロトフィブリルモノクローナル抗体			導入品（BioArctic AB）		
[概要] ベータアミロイド（A β ）プロトフィブリルに対するIgG1抗体です。神経毒性を呈することが報告されているA β プロトフィブリルを除去することで、アルツハイマー病の進行を抑制することを期待しています。					
早期アルツハイマー病	201試験	日米欧 PⅡ	Biogen Inc.と共同開発	注射剤	

開発品コード：ME2125 一般名：サフィナミド

薬効/作用機序：パーキンソン病治療剤/モノアミン酸化酵素B阻害剤			導入品（Meiji Seikaファルマ）		
[概要] 選択的なモノアミン酸化酵素B（MAO-B）阻害作用により、分泌されたドパミンの分解を抑制してドパミンの脳内濃度維持を助けます。また、ナトリウムイオンチャネル阻害作用を介したグルタミン酸放出抑制作用を有することから、ドパミン作動性作用と非ドパミン作動性作用を併せ持つ、新たなパーキンソン病治療薬となることを期待しています。					
◎ パーキンソン病	日本 申請（2018年10月）			経口剤	

○：2018年4月以降の進捗、◎：2018年7月以降の進捗

開発品コード： E2027

薬効／作用機序：レビー小体型認知症治療剤／ホスホジエステラーゼ（PDE）9阻害剤	自社品
[概要] 選択的なホスホジエステラーゼ（PDE）9阻害作用により、細胞内のシグナル伝達に重要なサイクリックGMP（cGMP）の分解を抑制し、cGMPの脳内濃度維持することにより、レビー小体型認知症に対する新たな治療薬になることを期待しています。	
レビー小体型認知症	201試験 (DELPHIA) 日米欧 P II / III 経口剤

開発品コード： E2730

薬効／作用機序：抗てんかん剤・神経疾患治療剤／シナプス機能モジュレーター	自社品
[概要] 活性化状態にあるシナプス機能を選択的に調整する新規作用機序を持つ化合物です。希少てんかんを含むてんかんや、てんかん原性等に対する新たな神経疾患治療薬になることを期待しています。	
◎ てんかん	201試験 米国 P II 経口剤

開発品コード： E2082

薬効／作用機序：抗てんかん剤・神経疾患治療剤／AMPA受容体拮抗剤	自社品
[概要] グルタミン酸受容体のサブタイプであるAMPA受容体へのグルタミン酸の作用を阻害する次世代AMPA受容体拮抗剤です。てんかんを含む新たな神経疾患治療薬、特に、てんかん原性等に対する治療薬になることを期待しています。	
てんかん	201試験 ◎ 米国 P II 日本 P I 経口剤

開発品コード： APD356 一般名：lorcaserin 製品名：Belvia

薬効／作用機序：肥満症治療剤／セロトニン2C受容体作動剤	導入品 (Arena Pharmaceuticals)
[概要] 新規作用機序の肥満症治療剤です。選択的に脳内のセロトニン2C受容体を刺激することにより摂食を抑制し、満腹感を促進すると考えられています。本剤は、米国において、Body Mass Index（BMI）が30kg/m ² 以上、あるいは少なくとも1つ以上の体重に関連する合併症を有するBMIが27kg/m ² 以上の成人患者様の体重管理を目的とした食事療法と運動療法に対する補助療法として、2012年6月に米国食品医薬品局（FDA）より承認され、米国麻薬取締局によるスケジューリング指定を経て、2013年6月に発売されました。2016年7月にメキシコ、2016年12月にブラジルにおいて、それぞれ承認を取得しました。また、米国では1日1回製剤の承認を取得し、販売しています。	
肥満症	日本 P I 経口剤

(2) がん

開発品コード： E7389 一般名：エリブリン 製品名：ハラヴェン

薬効／作用機序：抗がん剤／微小管ダイナミクス阻害剤	自社品
[概要] クロイソカイメン由来のハリコンドリンBの合成類縁体で、微小管の伸長を阻害し細胞周期を停止させることで抗腫瘍活性を示します。日本、米国、欧州、アジアなど、65カ国以上で乳がんに係る承認を取得しています。また、日本、米国、欧州、アジアなど、50カ国以上において脂肪肉腫(日本では悪性軟部腫瘍)に係る適応追加の承認を取得しています。	
乳がん	304試験 中国 申請（2017年11月受理） 注射剤
膀胱がん（効能追加）	702試験 米欧 P I / II 注射剤
トリプルネガティブ乳がん （抗PD-1抗体ベムプロリスマブとの併用療法）	218試験 米国 P I / II Merck & Co., Inc., Kenilworth, NJ, USA 注射剤 (米メルク社)と共同開発
HER2陰性乳がん（PEGPH20との併用療法）	219試験 米国 P I / II Halozymeと共同開発 注射剤
リボソーム製剤（剤形追加）	— 日欧 P I 注射剤

○：2018年4月以降の進捗、◎：2018年7月以降の進捗

開発品コード：E7080 一般名：レンパチニブ 製品名：レンピマ/Kisplyx

薬効/作用機序：抗がん剤/分子標的治療薬		自社品			
[概要] 血管内皮増殖因子受容体(VEGFR)や線維芽細胞増殖因子受容体(FGFR)に加え、血小板由来増殖因子受容体(PDGFR)、KIT、RETなどの腫瘍血管新生あるいは腫瘍悪性化に関与する受容体型チロシンキナーゼ(RTK)に対する選択的阻害活性を有する経口投与可能な、自社創出の新規結合型チロシンキナーゼ阻害剤です。甲状腺がんに係る適応で、日本、米国、欧州、アジアなど50カ国以上で承認を取得しています。また腎細胞がん(セカンドライン)のエベロリムスとの併用療法に係る適応で、米国、欧州など45カ国以上で承認を取得しています。なお、欧州における腎細胞がんに係る適応については、製品名Kisplyxを使用しています。さらに、肝細胞がんに係る適応で、日本、米国、欧州、中国、アジアなど35カ国以上において承認を取得しています。					
甲状腺がん(効能追加)	308試験	中国	PⅢ	米メルク社と共同開発	経口剤
腎細胞がん・ファーストライン(効能追加) (抗がん剤エベロリムスまたは抗PD-1抗体ペム ブロリスマブとの併用療法)	307試験	日米欧	PⅢ	米メルク社と共同開発	経口剤
○ 子宮内膜がん・セカンドライン (抗PD-1抗体ペムブロリスマブとの併用療法)	309試験	日米欧	PⅢ	米メルク社と共同開発	経口剤
肝細胞がん(効能追加)	304試験			◎ 米国 承認(2018年8月) ◎ 欧州 承認(2018年8月) 米メルク社 ◎ 中国 承認(2018年9月) と共同開発 ◎ アジア 承認(2018年8月・韓国)	経口剤
非小細胞肺癌(RET転座)(効能追加)	209試験	日米欧ア	PⅡ	米メルク社と共同開発	経口剤
胆道がん(効能追加)	215試験	日本	PⅡ	米メルク社と共同開発	経口剤
固形がん(子宮内膜がん、腎細胞がん、頭頸部がん、 尿路上皮がん、非小細胞肺癌、メラノーマ) (抗PD-1抗体ペムブロリスマブとの併用療法)	111試験 —	米国 日本	PⅠ/Ⅱ PⅠ	米メルク社と共同開発	経口剤
肝細胞がん (抗PD-1抗体ペムブロリスマブとの併用療法)	—	日米	PⅠ	米メルク社と共同開発	経口剤
肝細胞がん (抗PD-1抗体ニボルマブとの併用療法)	—	日本	PⅠ	小野薬品と共同開発	経口剤

開発品コード：MORAb-003 一般名：ファルレツズマブ

薬効/作用機序：抗がん剤/ヒト化抗葉酸受容体αモノクローナル抗体		自社品			
[概要] 葉酸受容体α(FRA)に対するヒト化IgG1抗体です。FRAが過剰発現しているがん腫に対して抗腫瘍効果を期待しています。					
ブラチナ感受性卵巣がん	O11試験	日米欧	PⅡ		注射剤

開発品コード：MORAb-004

薬効/作用機序：抗がん剤/ヒト化抗エンドシアリンモノクローナル抗体		自社品			
[概要] Tumor endothelial marker 1(TEM-1)/エンドシアリンに対するヒト化IgG1抗体です。エンドシアリンを発現しているがん腫に対して抗腫瘍効果を期待しています。					
メラノーマ	201試験	米欧	PⅡ		注射剤

開発品コード：MORAb-009 一般名：amatuximab

薬効/作用機序：抗がん剤/キメラ型抗メソセリンモノクローナル抗体		自社品			
[概要] メソセリンに対するキメラ型IgG1抗体です。メソセリンを発現しているがん腫に対して抗腫瘍効果を期待しています。					
中皮腫	O03/201試験	米欧	PⅡ		注射剤

○：2018年4月以降の進捗、◎：2018年7月以降の進捗

開発品コード：E7777

薬効／作用機序：抗がん剤／インターロイキン2受容体結合部分とジフテリア毒素の融合タンパク製剤	自社品
[概要] インターロイキン2 (IL-2) の受容体結合部分とジフテリア毒素の融合タンパク製剤であり、細胞表面上の IL-2 受容体と特異的に結合し、細胞内に移行したジフテリア毒素がタンパク質合成を阻害します。	
末梢性T細胞リンパ腫、皮膚T細胞性リンパ腫	205試験 日本 PII 注射剤

開発品コード：E7438 一般名：tazemetostat

薬効／作用機序：抗がん剤／EZH2阻害剤	導入品 (Epizyme)
[概要] ヒストンメチル基転移酵素を構成するたんぱく質の一つである EZH2 は、エピジェネティック関連酵素として、発がんプロセスにおいて重要な役割を担っていると考えられています。E7438 は、Epizyme 社が独自の創薬プラットフォームから創製した、ファーストインクラスの経口投与可能な低分子化合物であり、EZH2 の阻害を介した抗腫瘍効果が期待されています。エーザイは本剤の日本における開発・商業化権とアジア地域における優先交渉権を保有しています。	
B細胞性非ホジキンリンパ腫	206試験 日本 PII 経口剤

開発品コード：H3B-6545

乳がん	米国 PI/II 自社品 経口剤
-----	------------------

開発品コード：E7090

固形がん	日本 PI 自社品 経口剤
------	---------------

開発品コード：H3B-6527

肝細胞がん	米欧 PI 自社品 経口剤
-------	---------------

開発品コード：H3B-8800

血液がん	米欧 PI 自社品 経口剤
------	---------------

開発品コード：E7386

固形がん	欧州 PI 共同創出品 (PRISM Pharma) 経口剤
------	--------------------------------

開発品コード：MORAb-202

固形がん	日本 PI 自社品 注射剤
------	---------------

開発品コード：E7130

固形がん	日本 PI 共同創出品 (ハーバード大学) 注射剤
------	---------------------------

OMORAb-066 について、米国でフェーズ I 段階にありました固形がんを対象とした開発を中止したため、本表から削除しました。

(3) 消化器

開発品コード：AJM300 一般名：カロテグラストメチル

薬効／作用機序：潰瘍性大腸炎治療剤／ α 4インテグリン阻害剤			自社品
[概要] α 4インテグリンを阻害することにより、リンパ球の接着・浸潤を防ぐ新規作用機序を有します。経口 α 4インテグリン阻害剤として世界ではじめての製品化をめざしています。			
潰瘍性大腸炎	日本	PⅢ	EAファーマとキッセイ 経口剤 薬品の共同開発

開発品コード：AJG555 一般名：マクロゴール4000、塩化ナトリウム、炭酸水素ナトリウム、塩化カリウム
製品名：モビコール配合内用剤

薬効／作用機序：慢性便秘症治療剤／ポリエチレングリコール製剤			導入品 (Norgine)
[概要] ポリエチレングリコール製剤により腸管内の浸透圧制御を行うことで排便を促す経口便秘薬です。			
◎ 慢性便秘症	CT1/CT2試験	日本 承認 (2018年9月) EAファーマと持田製薬の共同開発	経口剤

一般名：イソロイシン・ロイシン・バリン顆粒 製品名：リーバクト配合顆粒

薬効／作用機序：分岐鎖アミノ酸製剤			自社品
[概要] 味の素が開発した分岐鎖アミノ酸製剤であり、非代償性肝硬変における血清アルブミン値を改善する薬剤です。日本では「食事摂取量が十分にもかかわらず低アルブミン血症を呈する非代償性肝硬変患者の低アルブミン血症の改善」を効能・効果とし、EAファーマより販売されています。			
低アルブミン血症	中国	PⅢ	2018年度申請予定 EAファーマと共同開発 経口剤

開発品コード：E6007

薬効／作用機序：潰瘍性大腸炎治療剤／インテグリン活性化阻害剤			自社品
[概要] インテグリン活性化阻害による白血球全般の接着・浸潤を抑制する新規作用機序を有する化合物です。科学技術振興機構の産学共同実用化開発事業として筑波大学と共同で開発を進めています。			
潰瘍性大腸炎	201試験	日本	PⅡ EAファーマが開発 経口剤

OE6130 について、日本でフェーズⅠ段階にありました炎症性腸疾患を対象とした開発を中止したため、本表から削除しました。

(4) その他

開発品コード：E6011

薬効／作用機序：抗フラクタルカイン抗体			自社品
[概要] エーザイグループのカン研究所において創製された、世界初のヒト化抗フラクタルカインモノクローナル抗体です。関節リウマチや炎症性腸疾患をはじめとする炎症性疾患の血管内皮細胞に発現し、炎症反応を惹起するフラクタルカインを中和することによる抗炎症作用を期待しています。			
関節リウマチ	201/202試験	日本	PⅡ 注射剤
原発性胆汁性胆管炎	ET1試験	日本	PⅡ EAファーマが開発 注射剤
◎ クローン病	ET2試験	日欧	PⅡ EAファーマが開発 注射剤

開発品コード：MORAb-022

関節リウマチ (抗体)	米国	PⅠ	自社品	注射剤
-------------	----	----	-----	-----

開発品コード：E6742

自己免疫疾患	米国	PⅠ	自社品	経口剤
--------	----	----	-----	-----

○：2018年4月以降の進捗、◎：2018年7月以降の進捗